

残留リスクは  
必ず存在する

BCM によって、あらゆる災害に対する事業継続を  
保証することはできない。



取締役には、**自社にとって合理的な BCM** を実施し、その状況や結果を  
株主に報告する責任がある。 <-- 株主の資産を保護し、利益を生み出すため  
(アカウンタビリティ)

「合理的な BCM」とは

- 組織的・計画的に取り組まれている
- 事業中断リスクに関する認識が適切
- 投資対効果のバランスが適切
- 取り組み状況が評価され、効果が検証されている

# BCM の目的の半分はアカウントビリティだと考える

BCM の目的は、

- 1) 事業の中断・阻害が発生した場合に、あらかじめ定められた範囲で、許容できる時間枠内に、製品およびサービスを提供し続けられるようにすること（国際規格における定義より）
- 2) 前項を実現するための能力を備え、かつ維持するための活動が、自社にとって合理的な状態で行われていることを、ステークホルダーに対して保証すること（講演者の持論）

これらのうち 2) が十分実施されれば、  
BCM は平常時から成果を生み出す活動である